

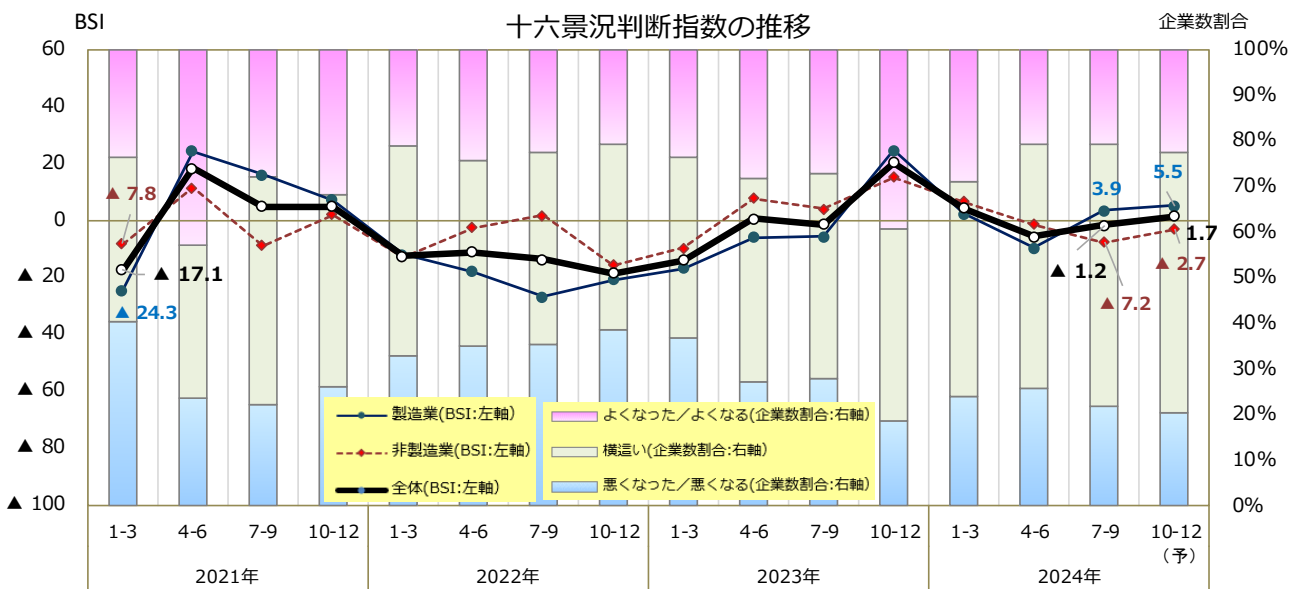
第208回 東海地区企業動向調査

『2024年7~9月期 十六景況判断指数 調査報告』

- ① 十六景況判断指数は▲1.2（前期比 4.1 上昇）と3期ぶりに上昇した。来期は1.7（今期比 2.9 上昇）とさらに上昇しプラスとなる見込み。
- ② 経営上の最大の問題点は製造業では「仕入商品・原材料高」、非製造業では「求人難」が1位。
- ③ 設備投資を実施した企業の割合は36.7%（前期比 5.2 上昇）と上昇した。製造業は今期、来期ともに約4割の企業が実施と回答しており、堅調に推移する見込み。

調査要領

- | | |
|-----------|---|
| 1. 調査方法 | 岐阜県、愛知県对企业に対し、Webと郵送を併用しアンケートを実施 |
| 2. 調査時期 | 2024年9月1日~17日 |
| 3. 調査期間 | 2024年7月~9月期 実績（見込み）
2024年10月~12月期 予想 |
| 4. 回答状況 | 有効回答数238社（岐阜県、愛知県の企业600社、有効回答率39.7%） |
| 5. 本調査の経緯 | 第1回調査 1966年1月(半期ごと)、1980年6月より四半期ごと |



*** 十六景況判断指数**

岐阜県、愛知県内の企業、600社を対象に、自社の業況について、前年同期と比べて「よくなった/よくなる」と回答した割合から「悪くなった/悪くなる」と回答した割合を差し引いて求めた指標

*** BSI (Business Survey Index)**

各項目につき、前年同期と比べて好転(増加・上昇・容易・過大)と回答した割合から、悪化(減少・低下・困難・不足)と回答した割合を差し引いて求めた指標

1. 今期実績と来期予想

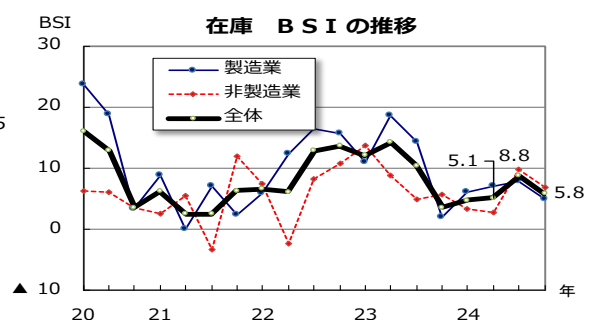
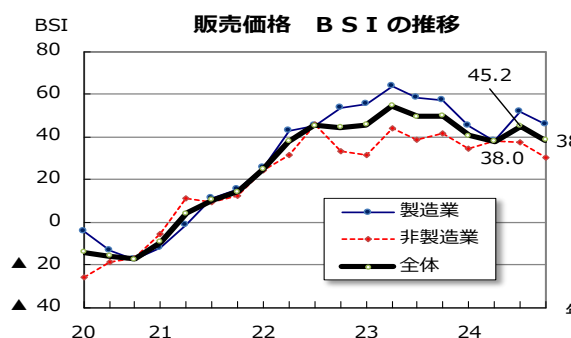
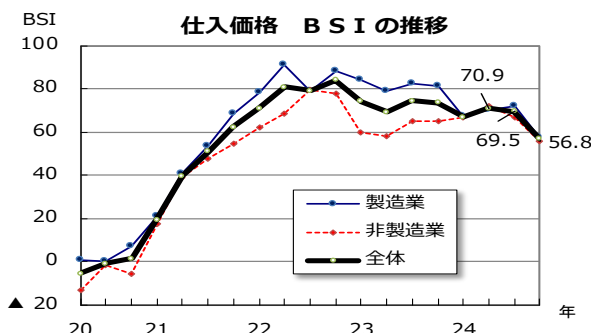
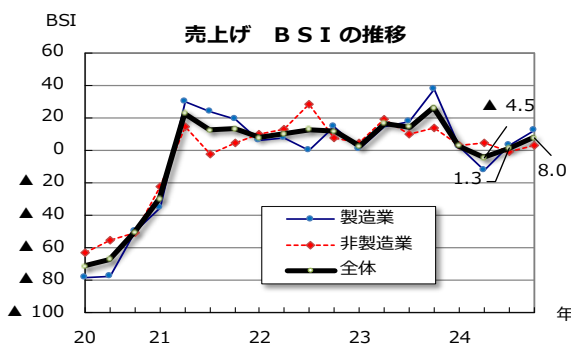
(1) 十六景況判断指数

十六景況判断指数は、▲1.2(前期比 4.1 増)と3期ぶりに上昇した。ここ2年は増減しながらも緩やかな上昇基調で推移している。業種別にみると、製造業は3.9(同 13.1 増)と大きく上昇し、非製造業は▲7.2(同 6.3 増減)と低下した。原材料価格や人件費、円安による輸入コストなど、生産コストの高止まりが続くものの、製造業では輸送用機械器具、食料品、繊維製品などがけん引し大きく上昇

した。非製造業では人手不足の深刻化や住宅着工数の減少、円安の影響などをを受けて卸売・小売業や建設業が低下し、3期連続の低下となった。

来期の十六景況判断指数は1.7(今期比 2.9 増)とさらに上昇しプラスとなる見込みである。業種別にみると、製造業は5.5(同 1.6 増)、非製造業は▲2.7(同 4.5 増)といずれも上昇する見込みである。

(2) 各項目のBSIの推移



売上げ BSI は▲1.3(前期比 5.8 増)と上昇し、来期は8.0とさらに上昇する見込みである。

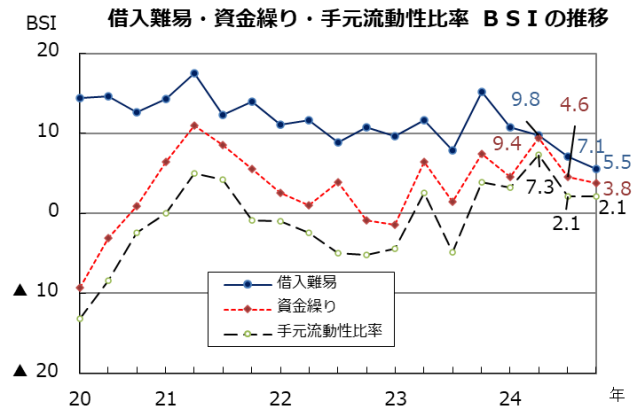
仕入価格 BSI は69.5(同 1.4 増減)とやや低下し、来期は56.8と大きく低下する見込みである。

販売価格 BSI は45.2(同 7.2 増)と上昇し、来期は38.5と低下する見込みである。

在庫 BSI は8.8(同 3.7 増)と上昇し、来期は5.8と低下する見込みである。

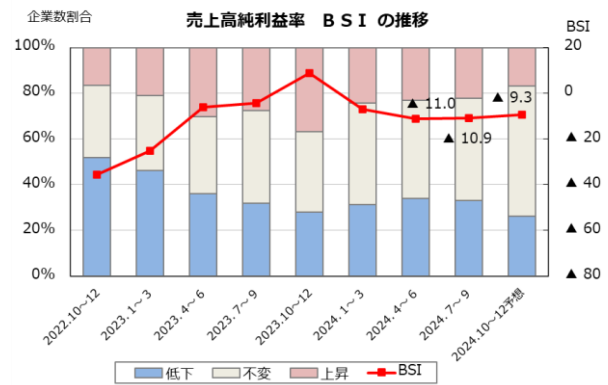
(3) 借入難易・資金繰り・手元流動性比率

今期の借入難易 BSI (容易-困難) は 7.1 (前期比 2.7 増減)、資金繰り BSI (楽-苦しい) は 4.6 (同 4.8 増減)、手元流動性比率 BSI (上昇-低下) は 2.1 (同 5.2 増減) といずれも低下した。来期の借入難易 BSI は 5.5、資金繰り BSI は 3.8 と引き続き低下し、手元流動性比率 BSI は 2.1 と横ばいで推移する見込みである。



(4) 売上高純利益率

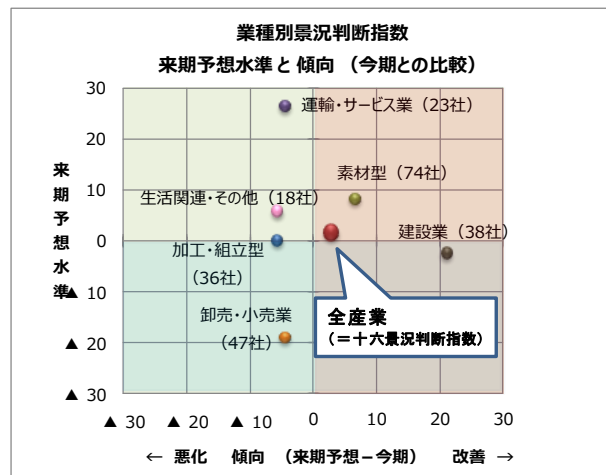
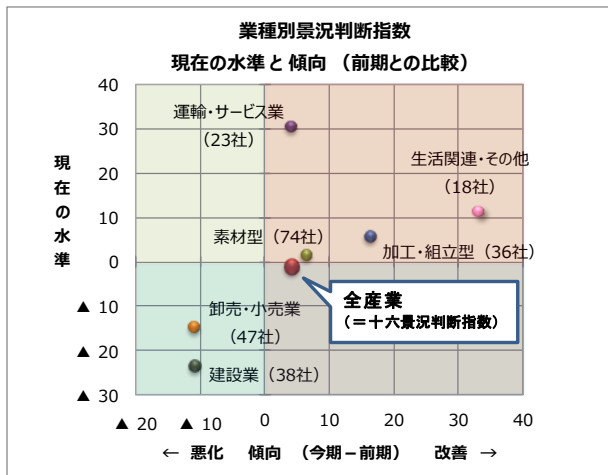
今期の売上高純利益率 BSI は▲10.9 (前期比 0.1 増減) とほぼ横ばいで推移した。上昇要因としては「売上げ増加」が最も多く 88.2%、二位以下は一桁だった。低下要因としては「売上げ減少」が最も多く 45.9%、次いで「原材料・仕入商品高」が 36.5%、三位が「人件費増加」で 13.5%だった。来期は▲9.3 とやや上昇する見込みである。



2. 業種別の動向

調査対象から鉱業を除いた 20 業種を 6 グループに分け、景況判断指数の水準と傾向を示した。今期は卸売・小売業と建設業以外の 4 つのグループで

BSI (よくなった-悪くなった) が前期比改善した。来期は素材型と建設業のみ BSI が今期比改善する見込みである。



注) 【製造業の分類】

素材型： 木材・木製品、紙・紙加工品、化学工業、窯業・土石製品、鉄鋼・非鉄金属、刃物・金属製品、プラスチック・その他製造業

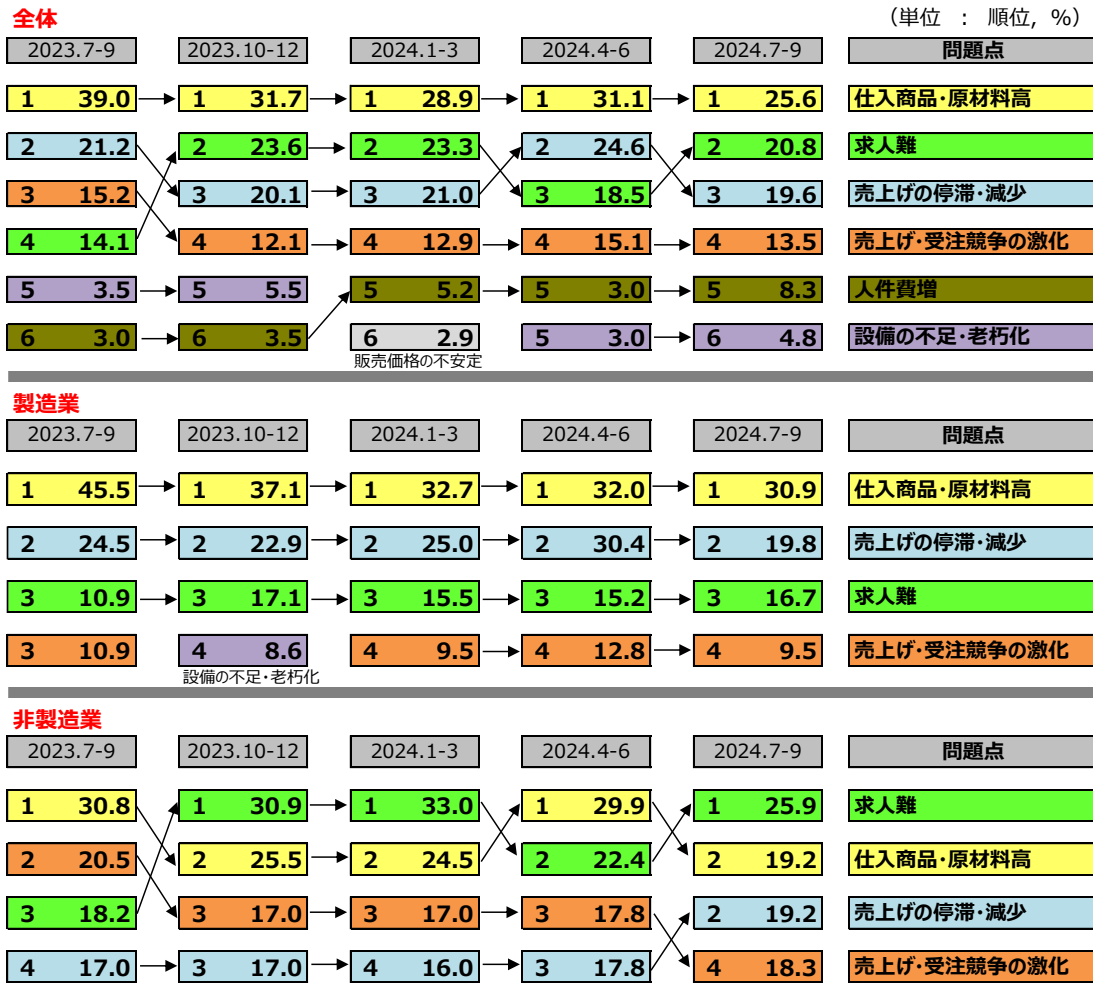
加工・組立型： 一般機械器具、電気機械器具、輸送用機械器具

生活関連・その他： 食料品、繊維工業、衣類その他繊維製品、家具・装備品、出版・印刷

※「鉱業」は回答企業数が少数であったため、分析の対象外とした。

3. 当面する経営上の最大の課題点

当面する経営上の最大の課題点（単一回答）順位の推移



当面する経営上の最大の課題点を尋ねたところ、「仕入商品・原材料高」と回答した割合が25.6%で最も高く、12期連続の1位となった。業種別でみると、製造業の上位4項目は3期連続で変動がなく、「仕入商品・原材料高」が30.9%で1位、「売上げの停滞・減少」が19.8%で2位だった。非製造業は「求人難」が25.9%で1位に浮上し、「仕入商品・原材料高」と「売上げの停滞・減少」が19.2%で同率2位となった。自由コメント欄では「住宅着工数の減少で売り上げに陰りを感じる（建設業）」「住宅業界は着工数減少、資材高、金利上昇など明るい情報がない（卸売

業）」「人件費、資材価格の高騰に請負金額がついていけない。結果として新規人材獲得・社員の育成にかかる経費が出てこない（建設業）」「賃上げより物価高の方が大きく消費マインドが低下している（出版・印刷）」といった個人消費の停滞や資材高・物価高への対応に苦慮する声が複数寄せられた。また、「円安で海外からの引き合いは以前に比べて増えたが、インフラの老朽化や人手不足でリードタイムがかかり機会損失が増えている（繊維工業）」など、円安によるメリットを受けられる企業においても人手不足による受注機会の逸失が見られた。

4. 設備投資

設備投資実施状況

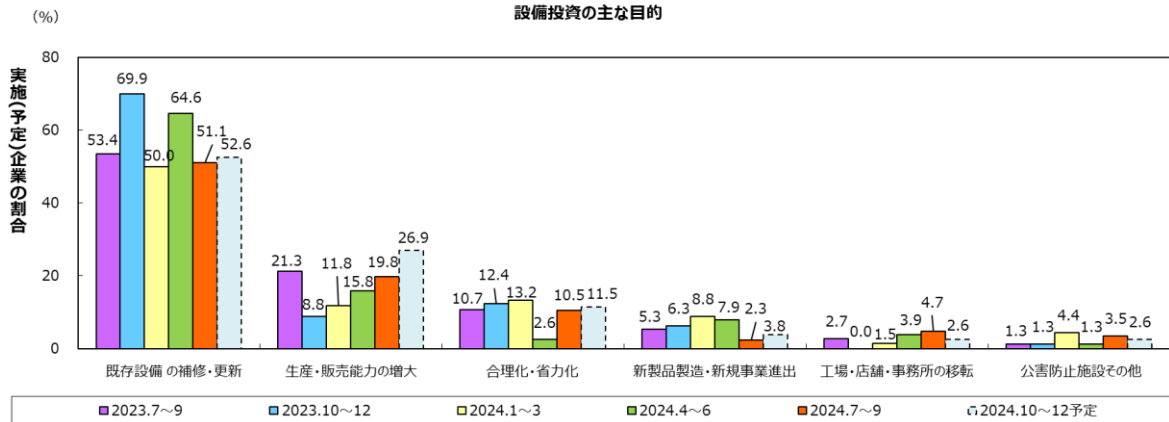
(単位：%，百万円)

	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	実施 企業 割合	投資 総額	1企業 当たり 平均 投資額	実施 企業 割合	投資 総額	1企業 当たり 平均 投資額	実施 企業 割合	投資 総額	1企業 当たり 平均 投資額
2022 4～6 実績	29.6%	5,626	97	32.5%	4,158	116	26.1%	1,468	67
2022 7～9 実績	35.5%	6,426	55	42.7%	5,248	76	26.9%	1,178	25
2022 10～12 実績	31.5%	8,521	64	34.4%	6,223	84	27.5%	2,298	39
2023 1～3 実績	38.3%	11,271	157	45.8%	6,486	127	27.9%	4,785	228
2023 4～6 実績	33.2%	10,680	148	40.0%	6,871	146	25.5%	3,808	152
2023 7～9 実績	38.1%	15,915	114	46.9%	3,770	47	27.0%	12,145	206
2023 10～12 実績	40.1%	7,581	56	44.9%	3,210	43	34.7%	4,371	72
2024 1～3 実績	31.3%	12,337	190	38.7%	9,380	213	22.4%	2,957	141
2024 4～6 実績	31.5%	6,530	40	35.4%	4,235	47	27.0%	2,294	31
2024 7～9 実績	36.7%	5,165	32	41.4%	4,137	48	31.2%	1,028	14
2024 10～12 予定	33.5%	5,971	38	39.7%	4,719	54	26.2%	1,252	18

今期、設備投資を実施した企業の割合は製造業が41.4%（前期比 6.0 ㊦増）、非製造業が31.2%（同4.2 ㊦増）といずれも上昇し、全体では36.7%（同5.2 ㊦増）となった。

来期、設備投資を予定する企業の割合は製造業が39.7%（今期比 1.7 ㊦減）、非製造業が26.2%（同5.0 ㊦減）といずれも低下し、全体では33.5%（同3.2 ㊦減）となる見込みである。

設備投資の主な目的



今期の設備投資の主な目的は、引き続き1位が「既存設備の補修・更新」で51.1%（前期比 13.5 ㊦減）、2位が「生産・販売能力の増大」で19.8%（同4.0 ㊦増）だった。3位が「合理化・省力化」で10.5%（同7.9 ㊦増）、前回3位の「新製品製造・新規事業進出」は5位に順位を落とし2.3%（同5.6 ㊦減）だった。

来期は、引き続き1位が「既存設備の補修・更新」

で52.6%（今期比 1.5 ㊦増）とやや上昇し、2位は「生産・販売能力の増大」で26.9%（同7.1 ㊦増）と4期連続で上昇が見込まれる。3位が「合理化・省力化」で11.5%（同1.0 ㊦増）、4位が「新製品製造・新規事業進出」で3.8%（同1.5 ㊦増）で、生産性向上に資する前向きな設備投資は人手不足等を背景に増加傾向で推移するとみられる。

5. 雇用

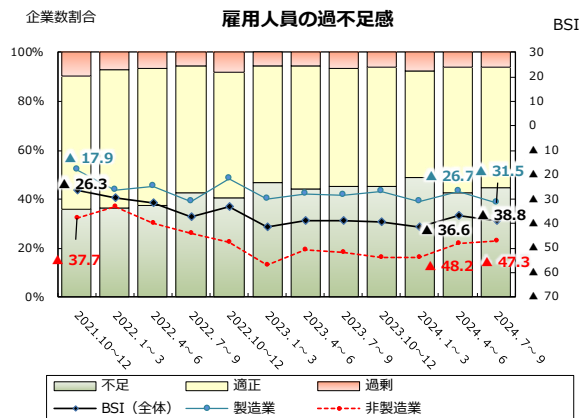
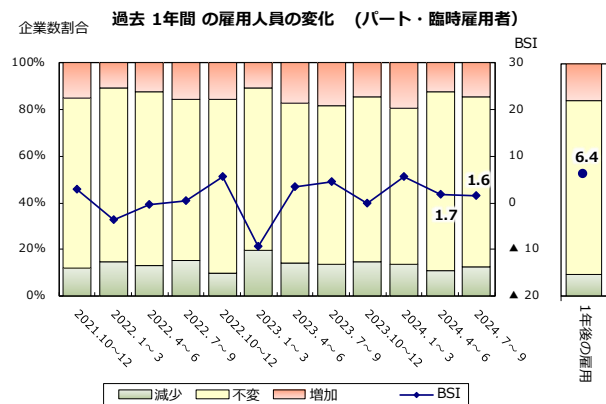
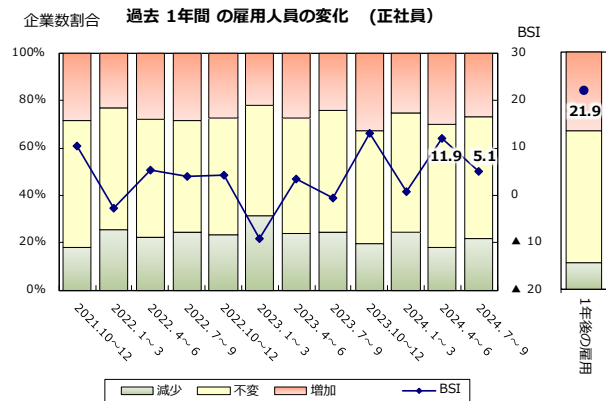
過去1年間の雇用人員の変化 BSI（増加－減少）は、正社員が5.1（前期比 6.8 削減）と低下し、パート・臨時雇用者は1.6（同 0.1 削減）とほぼ横ばいで推移した。正社員 BSI は増減を繰り返しながらも昨年から上昇傾向で推移している。

また、1年後の雇用人員の変化 BSI は、正社員が21.9、パート・臨時雇用者が6.4と、正社員の増加を見込む企業が多い傾向が続いている。

雇用人員の過不足感 BSI（過剰－不足）は▲38.8（前期比 2.2 削減）と低下し、依然として人手不足感は高い水準で推移している。業種別にみると、製造業が▲31.5（同 4.8 削減）と低下し、非製造業が▲47.3（同 0.9 削減）とほぼ横ばいで推移した。

自由コメント欄では「売上増加に伴い恒常的な人手不足の状況は継続しているものの、同業他社に比べ比較的採用状況は良好である（建設業）」という声がある一方、「人手不足がますます加速してるように感じる。大卒だけでなく高卒求人も難しくなっている（建設業）」など人材の確保に苦慮する声も寄せられた。また、「外国人労働者を雇用したいと思うが、社内でのコミュニケーションを心配している（食料品）」「過疎化による人材確保困難に直面しており、その打開策として AI 活用、DX 化など取り組むも思ったような効果が出ていないのが現状（刃物・金属製品）」など打開策を模索する声も寄せられた。

（研究員 藤木 由江）



6. Data

回答企業の業種別構成

業種	企業数	構成比(%)
製造業	128	53.7
食料品	7	2.9
繊維工業	5	2.1
衣服・その他の繊維製品	1	0.4
木材・木製品	6	2.5
家具・装備品	1	0.4
紙・紙加工品	7	2.9
出版・印刷	4	1.7
化学工業	6	2.5
窯業・土石製品	17	7.2
鉄鋼・非鉄金属	11	4.6
刃物・金属製品	12	5.0
一般機械器具	15	6.3
電気機械器具	5	2.1
輸送用機械器具	16	6.8
プラスチック・その他製造業	15	6.3
非製造業	110	46.3
鉱業	2	0.8
建設業	38	16.1
卸売業	36	15.2
小売業	11	4.6
運輸業	11	4.6
サービス業	12	5.0
合計	238	100.0

回答企業の資本金別・従業員規模別・地域別構成

資本金	企業数	構成比(%)
1,000万円未満	19	8.0
1,000万円以上～3,000万円未満	99	41.6
3,000万円以上～5,000万円未満	45	18.9
5,000万円以上～1億円未満	50	21.0
1億円以上	25	10.5
合計	238	100

従業員数	企業数	構成比(%)
10人未満	24	10.1
10人以上～50人未満	89	37.4
50人以上～100人未満	54	22.7
100人以上～300人未満	51	21.4
300人以上～500人未満	10	4.2
500人以上	10	4.2
合計	238	100

地域	企業数	構成比(%)
岐阜県	155	65.1
愛知県	83	34.9
合計	238	100

十六景況判断指数の推移

四半期	2020.4～6	2020.7～9	2020.10～12	2021.1～3	2021.4～6	2021.7～9	2021.10～12	2022.1～3	2022.4～6	2022.7～9	2022.10～12	2023.1～3	2023.4～6	2023.7～9	2023.10～12	2024.1～3	2024.4～6	2024.7～9	2024.10～12予想
良くなった	6.8	8.3	12.0	23.4	42.7	27.6	31.5	20.9	24.3	22.2	20.6	23.4	28.1	27.0	39.2	28.6	20.7	20.6	22.3
横這い	19.5	22.0	31.1	36.1	33.4	50.0	42.2	46.1	40.7	42.3	40.6	39.5	44.7	45.1	42.2	47.4	53.3	57.6	57.1
悪くなった	73.7	69.7	56.9	40.5	23.9	22.4	26.3	33.0	35.0	35.5	38.8	37.1	27.2	27.9	18.6	24.0	26.0	21.8	20.6
十六景況判断指数	▲ 66.9	▲ 61.4	▲ 44.9	▲ 17.1	18.8	5.2	5.2	▲ 12.1	▲ 10.7	▲ 13.3	▲ 18.2	▲ 13.7	0.9	▲ 0.9	20.6	4.6	▲ 5.3	▲ 1.2	1.7